

売上前年比約2倍と好調な台湾市場のさらなる強化を図り 「台湾タカラ会」オンラインで開催

システムキッチン・バスを中心とした住宅設備機器メーカー・タカラスタンダード株式会社（本社：大阪市城東区、代表取締役社長：渡辺岳夫）は、台湾における売り上げの拡大を図るため2018年より行っている得意先との懇談会「台湾タカラ会」を2022年3月10日（木）にオンラインにて開催しました。



（左：挨拶をする代表取締役社長の渡辺／右：現地とオンラインで繋いだ「台湾タカラ会」の様子）

タカラスタンダードは、東アジアを中心に10カ国で現地の販売代理店を通して商品を販売しています。中でも台湾は、現地販売店が約30店舗のショールームを展開しており、最も重要な市場の一つです。新型コロナウイルスの影響で台湾でもリフォーム需要が増えていることや、昨年新規ショールームがオープンしたことなどにより、2022年3月期第3四半期の売上実績（4-12月累計）は前年比約2倍と非常に好調で、ホーローの認知度向上などにより、今後もさらなる売上拡大が期待できます。

そして、現地の代理店と主力販売店にさらに当社への理解を深めていただくため、また販売ルートを超えて交流を図っていただくために、2018年から「台湾タカラ会」の開催を始め、今年で4回目を迎えます。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、昨年に引き続きタカラスタンダード本社（大阪市）と台湾の各代理店や販売店をオンラインで繋いでの開催となりました。

当日は、24名が出席し、冒頭には当社代表取締役社長渡辺が「足元の世界情勢は不安定ですが、当社の積極的に海外事業に取り組む方針に変わりはありません。皆さんの卓越した販売力で売り上げ拡大は必ず実現できます。ブランド力の強化、専用商品の開発、駐在員事務所設置の検討を3つの重点課題に、当社としても台湾に引き続き注力していきます。」と挨拶をしました。その後、日本国内や海外の業績の報告が行われた他、商品などに対する要望に関する意見交換が行われました。

2022年3月期の海外事業の売り上げは約10億円となる見込みで、10年後の目標として売り上げ100億円の達成を掲げています。その達成のため、今後も台湾をはじめとした東南アジアを中心に売り上げ拡大を図り、海外市場におけるさらなる成長を目指してまいります。

<タカラスタンダードとは>

1912年創業。『ずっと「愛せる」というしあわせ。』をブランドコンセプトに、独自の「高品位ホーロー」技術を活かしたシステムキッチン・バスを中心とした住宅設備機器を製造販売。より高度化、多様化、複合化するお客さまのニーズにお応えするホーロー技術のリーディングカンパニーとして、また住宅設備機器のトップメーカーとして、次世代を担う新たなホーローの可能性を追求し、快適な暮らしの創造を目指しています。

[設立：1912年5月30日（創業109年） / 売上高（連結）1,921億円（2020年度） / 従業員数（連結）6,278名]